

進捗状況報告シート

(2011年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	人間福祉研究科
大項目	0 理念・目的 (研究科)
中項目	
小項目	0.0.1 大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか。
要素	理念・目的の明確化 実績や資源からみた理念・目的の適切性 個性化への対応
小項目	0.0.2 大学・学部・研究科等の理念・目的が、大学構成員 (教職員および学生) に周知され、社会に公表されているか。
要素	構成員に対する周知方法と有効性 社会への公表方法
小項目	0.0.3 大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。
要素	

II. 自己点検・評価 (2010.5.1～2011.4.30の進捗状況報告)

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。進捗評価はA～Dの4段階とし自ら評価した。A～D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 研究科設置の理念・目的の定期的見直しをする。	→研究科委員会および研究科懇談会での理念・目的についての見直しの議題件数。	B	B			
2. 研究科の使命および目的について公表し周知する。	→広報媒体 (ホームページ、要覧、パンフレット、紀要など) の使命および目的に関するコンテンツの件数。	A	A			
3. 研究科の固有性および特色について定期的に検証する。	→ワーキング・グループの設置と検討回数および報告書の作成とその公表の部数。	B	B			

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

小項目0.0.1	0.0.1 大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか。 (理念・目的の設定の有無) いずれかにチェックしてください。 →→→ ● 理念・目的を設定している ○ 理念・目的を設定していない (理念・目的) 人間福祉科の理念・目的については、2008年度の設置当初より継続中で適切である。なお、2010年度には理念・目的を具体的にさらに充実する措置がとられた。 (説明) 研究科設置の理念・目的に照らし合わせて、大学院諸問題検討委員会、研究科委員会でカリキュラム検討などを行った。新科目の設置および担当者の追加など2011年度より実施することを決定した。
★ 小項目0.0.2	0.0.2 大学・学部・研究科等の理念・目的が、大学構成員 (教職員および学生) に周知され、社会に公表されているか。 (周知・公表の有無) いずれかにチェックしてください。 →→→→→→→→→→ ● 周知・公表している ○ 周知・公表していない (説明) 研究科の理念・目的について教職員ともども学生に対して2010年度も広報媒体 (ホームページ、パンフレット、研究雑誌、紀要など) を用いて研究科の使命および目的を公表周知した。そのほか人間福祉学部生向けに大学院入学の勧めなどチラシの作成と説明会などを2回開いた。
小項目0.0.3	0.0.3 大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。 (検証の有無) いずれかにチェックしてください。 →→→→→→→→→→ ● 検証している ○ 検証していない (説明) 大学院諸問題検討委員会、研究科委員会において研究科の特色など意見交換を行い、検討を重ねた。
その他	

《評価指標データ》

本学の育成した人材（卒業生）に対する社会（企業）の評価

卒業生がどの程度スクールモットー(マスタリー・フォア・サービス)をどの意識しているか

卒業生のうち、自分の子供等、身内に関学への進学を勧めたいと思う人の比率

卒業生のうち、自分の子供等、身内に関学への進学を勧めたいと思う人で、「スクールモットーに共感できる」ことをその理由とする人の比率

在学生のうち「この大学で人生の一時期を過ごすことが、将来にとって役立つと思う」人の比率

理念の周知について(1)－理念・教育目標を宣布する発行物・行事などの種類・数

理念の周知について(2)－総合コース「『関学』学」の履修者数

☆ 追加データがあれば追加してください。

◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

【点検・評価(1)】効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目0.0.1	研究科委員会および学部教授会などを通じて広く意見聴取をおこない、理念、目的を充実させた。
小項目0.0.2	
☆ 小項目0.0.3	大学院諸問題検討委員会だけでなく、研究科委員会においても検討を重ねた。
その他	

【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目0.0.1	
☆ 小項目0.0.2	人間福祉学部学生を対象にした進学説明会は開催したが、学外者に対しては全学的な広報活動に終わったので、研究科独自の広報活動について検討をする。
小項目0.0.3	
その他	

◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

【点検・評価(2)】改善すべき事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目0.0.1	
小項目0.0.2	
☆ 小項目0.0.3	
その他	

【次年度に向けた方策(2)】改善方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目0.0.1	
小項目0.0.2	
☆ 小項目0.0.3	
その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

☆ その他 (自由記述)	
-----------------	--

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価専門委員会の評価>

【学外委員】

○研究科の理念・目的について検証が進められています。広報活動については積極的な取り組みが望まれます。

【学内委員】

○人間福祉研究科の理念・目的の設定、公表については適切に行われており、評価できます。

○学生向けの「広報媒体（ホームページ、パンフレット、研究雑誌、紀要など）」による公表・周知、人間福祉学部学生向けの「チラシの作成・説明会」（2回）の開催など、順調な取り組みが進展しています。学外や全学への周知のための広報・説明も期待されます。

○小項目0.0.1の(理念・目的)は理念・目的そのもの(内容)を書いてください。2010年度の具体的な充実は、どう充実したかを含め(説明)で記述してください。なお、(説明)におけるカリキュラム関係の記述は、他の項目での記述内容かと思えます。

【大学基準協会：評価に際し留意すべき事項】

○小項目0.0.1

基盤評価：「学部、学科または課程ごとに、大学院は研究科または専攻ごとに、人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的を学則またはこれに準ずる規則等に定めていること」「高等教育機関として大学が追求すべき目的を踏まえて、当該大学、学部・研究科の理念・目的を設定していること」

達成度評価：「建学の精神、目指すべき方向性や達成すべき成果等を明らかにし、当該大学、学部・研究科の理念・目的として適切である」

○小項目0.0.2

基盤評価：「公的な刊行物、ホームページ等によって、教職員・学生、受験生を含む社会一般に対して、当該大学・学部・研究科の理念・目的を周知・公表していること」

達成度評価：「理念・目的の周知・公表に関する各種方策（周知・公表の有効性や方法の適切性等の定期的な検証・改善など）をとり、当該大学に対する理解向上につながっている」

○小項目0.0.3

基盤評価：なし

達成度評価：「検証を実施する体制を整備し、責任を明確にするなどしたうえで、理念・目的の適切性について、恒常的かつ適切に検証を行っている」

IV. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

○小項目0.0.1（理念・目的）

学則・規程に定めるとおり、前期課程については実践指導者の養成、後期課程については研究者の養成を理念・目的としているが、その具体的な充実の実施として2010年度に取り組み始めたことをカリキュラム見直しおよび担当者の増強として記述してある。

★ ○小項目0.0.2（説明）
公表に関しては、大学の発行する広報媒体を使った広報・説明は学外や全学への周知を当然行っていることを前提にさらに付け加えたものとして学部内学生に紹介・説明を加えたことご理解願いたい。